

令和4年度現職研修助成事業研修概要

柳井市立日積小学校

1 はじめに

本校は、柳井市北部に位置し、豊かな自然や人情あふれる人々に囲まれた、全校児童23名、複式学級3学級、特別支援学級1学級の小規模校である。学校教育目標を「ふるさとに誇りをもち、心豊かで主体的に生き抜く日積っ子の育成」と掲げ、めざす児童像を「考える子、思いやりのある子、実践する子」とし豊かな人間形成を目指している。その具現化に向けて、学校・家庭・地域の絆を深め、協働体制を強化し、教育活動の充実を図りながら、共に子どもたちの学びを支えている。

2 研究主題

本校は、素直な子どもが多く、課題に対して意欲的に取り組むことができる。また、友達や地域の人々等とのかかわりの中で、進んで探究し、自分の考えを伝えようとする姿が見られるようになってきている。しかし、書くことにより表現したり、他者と交流しながら考えを広げ深めたりすることについては、課題が感じられる。また、学習したことを、次の学習や生活場面に生かしていく力を身に付けることも必要であると考え。

昨年度より、研究主題を「ふるさとに誇りをもち、主体的に生き抜く児童の育成」と設定し、研究に取り組んでいる。日積地域の教育的資源、少人数ならではのよさを生かした教育活動を展開することで、子どもたちが、ふるさとを見つめ、学びを確かなものとして、主体的に生きていくことを期待して、実践を重ねている。これまでの成果と課題を踏まえ、今年度は、「学びをつむぎ、知を拓く授業の創造」と副主題を設定し、取り組むこととした。直面する様々な場面において、自分の経験や知識・技能を活用するとともに、他者と協働して問題を解決していくことが大切である。多様な見方や考え方もつ他者とかかわる中で、自らの考えを振り返り、学びを再構築していくことのできる子どもを育てていきたい。そして、自ら知を拓き、新たな方策を見付けて課題解決に向かう力、実生活につなげていく力を育てていきたいと考えた。そこで、子どもたちが他者と考えを語り合う「学びをつむぐ」場を工夫すること、子ども一人ひとりが学びの世界に浸り、自己省察しながら「知を拓く」ことのできる場を工夫することに重点を置き、授業づくりを進めることとした。

【研究仮説】 子どもが課題解決に向かう過程において、他者と学びをつむぎ、自ら知を拓いていくための働きかけを工夫することができれば、ふるさとを見つめ、主体的に生き抜く力を伸ばしていけるのではないかと。

3 研究の内容

研究仮説のもと、以下の4つの研究の視点を基に、授業研究や教育活動全体を通して検証していくこととした。

- (1) 学び合いにつながる授業づくり
 - ・学習規律の徹底、学習環境の整備
 - ・問題解決的、探究的な学習過程の工夫
- (2) 「学びをつむぎ、知を拓く」授業の工夫
 - ・「学びをつむぐ」場の工夫
 - ・学び合いの活性化のために「視点」提示の工夫
 - ・発問の工夫
 - ・「知を拓く」ことにつながる振り返りの充実
- (3) 複式学級の特性を生かした授業の創造
 - ・指導計画作成、教師の支援等の工夫
 - ・ガイドとフォロワーの協働的学習の工夫
 - ・複式学習や個人差に対応したICTの効果的な活用
- (4) ふるさとへの思いを育む教育活動
 - ・目的にそった地域人材や地域資源の活用
 - ・学校・地域連携カリキュラムを基にした授業づくりの工夫
 - ・単元のつながりや他教科等との関連を図った授業構想

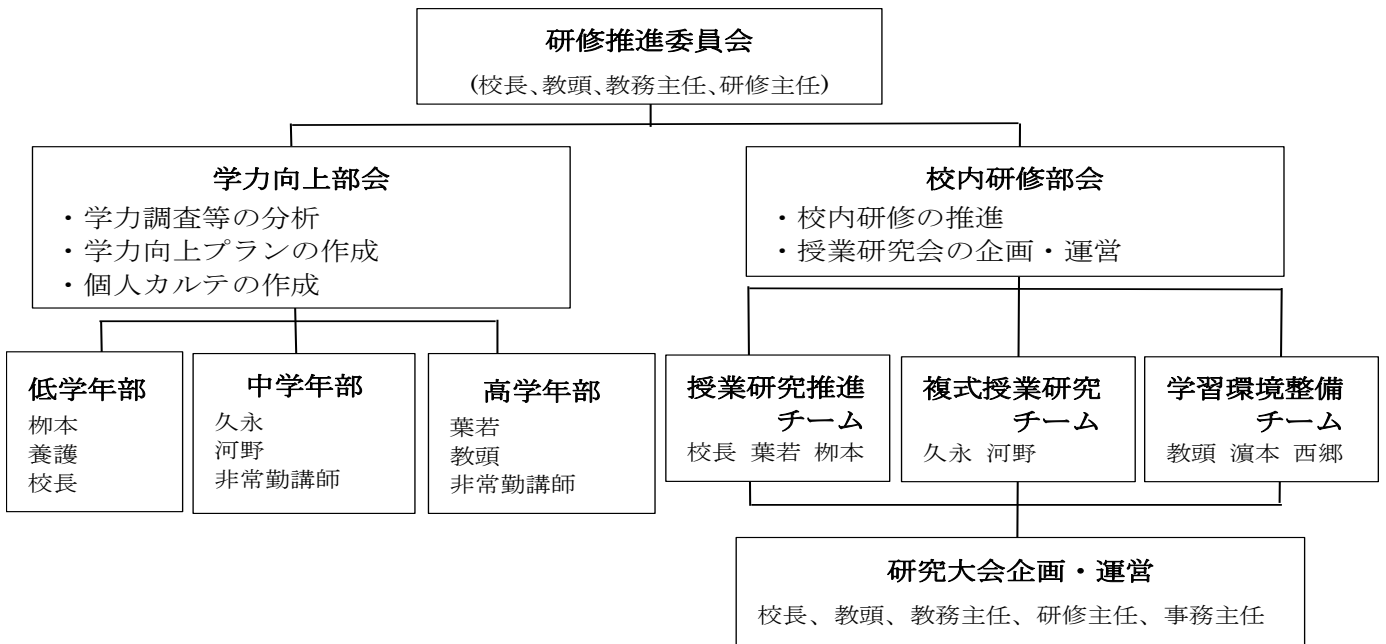
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
「つむぐ」場でのめざす姿	○自ら考えをもち進んで伝えたり、友達の発言に即ちもって返したりしながら、話を聞いていく。	○思いを共有し、比較・分類したり、他の視点から考えたりしながら、自分の考えを深めていく。	○他と自分の考えを関連付けたり、複数の視点から見つめたりしながら、新たな考えを構築していく。
「学びをつむぐ」子どもの様子【例】	・考えを述べ 「わたくしは～」 「自分から～から」 ・相手を述べ 「ここ～とあるから、・・・」 ・意見を述べ 「～と同じで、・・・」 「～と違って、・・・」 「～と違って、・・・」 「学び加える～」 ・疑問を述べ 「～の～の～が、いまいし、なぜなら・・・」	・共有する 「自分の意見～意見～・・・と共有している」 ・組織化 【組織化】「同じ～のことば～」 「組織化」 ・分類する 「これらは～、これらは～に分けること」 ・活用化 「～と～、～は～」 ・整理とつながる 「～の～では、～だったので・・・」 ・学びをつむぐ 「～では、～だったので・・・」	・関連化する 「～と～から、～と～から」 ・共有する 「自分の意見～意見～・・・」 ・活用化する 「これら～の～から～」 ・強化する 「～だけでなく、～も加えるので・・・」 ・共有する 「これら～の～から～」 ・考えを関連化する 「これら～の～から～と～から」
教師の留意点【例】	・視点を提示	・視点を提示	・複数の視点から考える 【例】 得意了・得意了・得意了 【例】 得意了・得意了・得意了 【例】 得意了・得意了・得意了

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
「拓く」場でのめざす姿	○考えを自分の言葉で表す。	○他者の考えや、他の視点などをつなげて、自分の考えを深める。	○様々な考えや、複数の視点を関連付けて、新たな視点で考えを深める。 ○自分の考えを深め、発展させた考えを表現する。
「拓く」場でのめざす姿【例】	・考えたことについて 「～と～」 ・自分の考えを述べ 「～から、・・・」 ・自分の意見を述べ 「～から、・・・」 ・自分の意見を述べ 「～から、・・・」 ・自分の意見を述べ 「～から、・・・」 ・自分の意見を述べ 「～から、・・・」	・他者の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」	・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」 ・自分の考えを共有 「～から、・・・」
教師の留意点【例】	・視点を提示	・視点を提示	・視点を提示

「学びをつむぐ」「知を拓く」場の工夫
発達段階に応じてまとめた表（ステップ1～3）

4 研修組織と研修計画

(1) 研修組織



(2) 研修の年間計画

日程	研究発表会	その他研修	学力向上
4月27日	研究発表会に向けて ・研究の方向性 ・視点の明確化 ・指導案形式について	校内研修について ・研修組織	
5月25日	3つのチームからの提案 研究紀要について 指導案検討①(第1・2学年)	小中合同研修会に向けて 総案①の検討	
6月15日	指導案検討②(第3・4学年) 指導案検討③(第5・6学年)		
6月22日	授業研究会①(第1・2学年)	小中合同研修会	
6月29日	授業研究会②(第3・4学年)		
7月6日	授業研究会③(第5・6学年)		
8月3日 8月24日 8月25日	研究大会指導案検討① (第1・2学年) (第3・4学年) 研究大会指導案検討② (第5・6学年) (特別支援学級) 研究紀要について 研究紀要検討会 指導案検討④(特別支援学級)	人権教育研修 ・校外研修復伝 アレルギー対応研修 特別支援教育研修	全国学力学習状況 調査・標準学力調査 等分析 学力向上プランの 作成
9月7日 9月21日	大会運営・会場準備・環境整備計画 授業研究会④(特別支援学級)		
9月22日	2次案内送付		
10月5日	発表プレゼン原稿検討会		
10月20日 10月26日	研究発表リハーサル①	人権教育参観日 ・人権教育参観日指導案提出	
11月9日	研究発表リハーサル②		県学力定着状況確 認問題分析

1月24日	柳井地区へき地・複式・小規模校教育振興会授業研究会 講師 山口市立秋穂小学校 校長 川本 卓 様 周南市立夜市小学校 教諭 花岡 鉄平 様 他		
12月23日		研修のまとめについて	
1月18日			学力向上プランの見直し
2月 8日		ICT 活用方法の工夫	
3月 8日		研修のまとめ ・成果と課題 (本年度の振り返り)	

5 具体的な取組

(1) 学び合いにつながる授業づくり

子どもたちが主体的に友達と関わり、学びをつむいでいくための土台として、学習規律の徹底や環境の整備を行い、落ち着いた学習環境をつくるのが大切である。そこで、学習規律表を作成し全教職員で共通理解をして取り組んだり、ユニバーサルデザインに基づいた教室掲示を考え、統一を図ったりしてきた。そうすることで、静かな環境で、落ち着いて学習を始める子どもの姿が見られた。

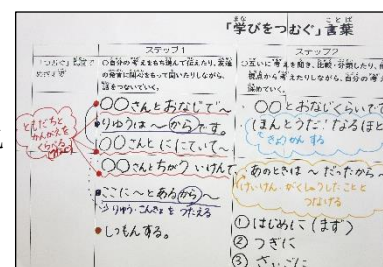
また、子どもたちが思わずやってみたくくなるような、そして、友達と学びをつむいでいきたくなるような、問題解決的、探究的な学習の設定も工夫してきた。例えば、単元の始めに、子どもたちが「なぜだろう。」「調べてみたい。」と思えるような、実生活と関わりのある課題を投げ掛けることで、「こうなるのではないかな。」と予想を立てたり、「こうしたらよいのではないかな。」と改善案を考えたりする生き生きとした姿が見られた。単元を通して、課題意識が連続発展していくような学習の流れを工夫することで、学び合いの必要感をもたせていきたい。



課題意識をもって調べている様子

(2) 「学びをつむぎ、知を拓く」授業の工夫

子どもたちが、課題に対する考えを他者と伝え合い、学びを深めていくことができるよう「学びをつむぐ」場を工夫している。その中で、子どもたちが、どのように他者と考えを交流し、学びを深めていくとよいかわかるように、つむぐ言葉を可視化し、整理していくようにした。子どもから出た言葉を価値付け、ボードに書き加えていくことで、意欲的につむぐ言葉を活用しようとする子どもたちの姿が見られた。また、つむぐ言葉を活用していく中



「学びをつむぐ」言葉の掲示

で、自分の考えと友達のことを比べたり、資料や自分の経験などから得た根拠を基に伝え合ったりしながら、学びをつむいでいく姿も見られるようになってきている。同時に、子どもたちが主体的に「学びをつむぐ」ことができるよう、考えの表現方法を工夫した。子どもたちは、カルタやポップ、短冊などに楽しみながら表現し、それらを基に交流することで、自分と友達の考えを意欲的に比較したり関連付けたりすることができ、思考の深まりが感じられた。



友達の考えを動画で提示

また、子ども一人ひとりが学んだことを振り返り、新たな価値を見出したり、考えを強化したりしながら、学びを再構築していくために、「知を拓く」場を工夫している。その中で、子どもたちがどのような視点で振り返るとよいか分かるように、3つの視点「かわりから気付いたこと」「分かったこと・できたこと」「これからしてみたいこと」を提示し、学習のねらいに応じて振り返ることができるようにした。その際、子どもから出された言葉を取り上げ、視点ごとに整理して掲示しておくことで他の学習においても、振り返りをする際の手掛かりとなった。そうすることで、友達や地域の方との関わりから自分の学びを深めたり、生活や学習につなげたりする意欲的な言葉が子どもから出てくるようになった。「知を拓く」ことが、子ども一人ひとりにとって、真の学びとなるよう、一層の工夫をしたい。



振り返りの視点の提示

(3) 複式学級の特性を生かした授業の創造

教科等の特性を踏まえて、複式で行う教科と、A年次とB年次に分けて2年間を見通して実施する学習を教育課程に位置付けている。そうすることで、より効果的・効率的に学習を進めることができると考える。



複式授業で考えを伝え合う様子

複式学級での授業に向けては、「ガイド学習の手引き」や「日積小ガイド学習系統表」を作成し、それらを活用しながら取り組んできた。ガイド役の子どもが「学習の進め方」(手引き)を活用し、流れに沿って進行することで、子どもたちが協働的に学習することができるようになってきている。発問を精選し、1つの問いに対して子どもたちが探究していけるような授業づくりを行い、教師が間接的に見守り、適切な場で支援ができる授業をめざしていきたい。また、小規模校の特性を活かし、近隣の小学校とリモートで学習を行っている。子どもたちは、新たな視点を持ち、考えを広げることができた。ICTを効果的に活用し、日常的に交流学习の場を設定し、学びの充実を図りたい。



近隣校とICTを活用しての交流

(4) ふるさとへの思いを育む教育活動

昨年度に引き続き、学校運営協議会委員、学校応援団、教職員で、「めざす子どもの姿」について話し合い、学校・地域連携カリキュラムを基に、生活科・総合的な学習の時間の授業づくりを行っている。授業のねらいに沿って、活用できそうな地域資源や人材について交流したり、学習活動について吟味したりしながら単元構成を行った

ことで、研究主題に迫る授業実践へとつなげることができた。また、実際の授業の際にも多くの方が関わってくださった。ゲストティーチャーとして、地域の特色や実態、思いや願いを話していただくことで、子どもたちは、課題を現実的に捉え、その解決のために主体的に取り組んでいく姿が見られた。子ども自ら、どんなことができるか考え、実践していくことができるよう促していきたい。



授業について語り合う様子（熟議）



地域の人の案内で現地調査



地域の人との意見交流の様子

6 成果と課題

(1) 成果

- ・視点1 「学び合いにつながる授業づくり」として、学習規律の徹底や環境の整備に取り組むことにより、子どもが落ち着いて学習することができた。また、問題解決的な学習を設定することで、主体的に学びに向かう姿が見られるようになってきた。
- ・視点2 『「学びをつむぎ、知を拓く」授業の工夫』として、「学びをつむぐ」場面、「知を拓く」場面で、めざす子どもの姿をステップ1・2・3の段階に分けて表に整理し、それを基に取り組んできた。また、発問や手立てを工夫することで、自他の考えを比較したり関連付けたりしながら考えを深める姿が見られた。
- ・視点3 「複式学級の特徴を生かした授業の創造」として、近隣校とのオンラインによる合同学習を取り入れたことは、学びの充実のために効果的であった。
- ・視点4 「ふるさとへの思いを育む教育活動」として、地域の教育的資源を生かし、地域と共に授業づくりを行ったことで、学習の充実につながった。また、日頃から地域と関わることで、子どもたちは、地域を身近に感じ親しみをもつことができた。

(2) 課題

- ・「学びをつむぐ」場を学習過程に効果的に取り入れ、学習のねらいに応じて、手立てをより工夫していく必要がある。また、「知を拓く」場の充実も図っていきたい。
- ・子どもが学び方を習得し、自ら選択し主体的に学んでいくための工夫をしたい。
- ・地域の人々への感謝の気持ちをもって自分たちにできることを考え、実践していくことが大切である。ふるさとに誇りをもち、地域で活躍する姿を求めている。

7 おわりに

これまで、研究主題である「ふるさとに誇りをもち、主体的に生き抜く児童の育成」をめざして取り組んできた。子どもたちの成長を感じて喜び、地域の方とともに授業つくる楽しさを感じて感激し、一方で、なかなか思い通りに進めることができないもどかしさを感じながら、一步一步進んできた。これからも、“小規模校だからこそ！”“小規模校ならでは！”のよさ、そして“授業づくりの楽しさ！”を味わいながら、楽しく実践を重ね、「ひづみんスタイル」を発信していきたいと考えている。